



<同志社人が母校を誇りに思える情報>

「同志社ファン・レポート」

Ver.2-024 号

新島襄から学ぶ その1



2019年3月14日の朝日新聞に連載中の(語る 人生の贈りもの)

姜尚中：4「問いを抱え、引きこもって乱読」につぎのことが書かれていた。

《ひとりぼっちの姜さんをいやしたのは読書だった。父母は廃品回収業で寄せられる古書の中から好きな本を選ばせてくれたという。総合雑誌や歴史書や文学作品を乱読。なかでも熊本ゆかりの夏目漱石作品に親しんだ》

姜尚中は「活字から社会を見たぼくは、やはり大学に行きたいと思い至りました。中3のとき家出してでも見たかった東京に出ようと決心したのです。」と結んでいる。

これを読んでダブったのは、新島の若かりし頃のことである。

姜尚中の文章になぞらえると

<三冊の本*を読んで、そこから今とは違った世界、即ち、米国やキリスト教を知った。そして、更に深く知りたいとの思いが強まっていった。脱国してでも米国に行こうと決心し、21歳の時に実行に移した。>

あなたも二人と似た行動があったのではないのでしょうか？

ある本がきっかけで、行動を改め、変身したご経験がおありでしょう。

また、新島のこの行動から学んだことは、どのようなことでしょうか？

これらをメールでお教えてください。それをOBOGで共有化出来ればと考えました。

お寄せいただいた内容は、原則、つぎの「同志社ファン・レポート」で公表します。
文章には、氏名・学部・卒業年を添えてください。ぜひ、お待ちしております。

*三冊の本

1. 『連邦志略』

アメリカ合衆国の地図書で、アメリカン・ボードの宣教師 [E・C・ブリッジマン] が漢文で書いたもの。新島は、その本で大統領の選出、授業料無料の公立学校や救貧院、少年更生施設、工場などを建てることを知って、脳みそが頭からとろけ出そうになるほど驚嘆した。

2. 漢訳聖書の抜粋『真理易知』

友人から借りたこの本をこっそり読んで「私は神に感謝し、神を信じ、神に対して正直にならなくてはならない」と深い理解を示している。

3. 『ロビンソンクルーソー物語』

これを読んで、新島の冒険心はかき立てられていきます。 ■